

千葉県私国立中入試概況

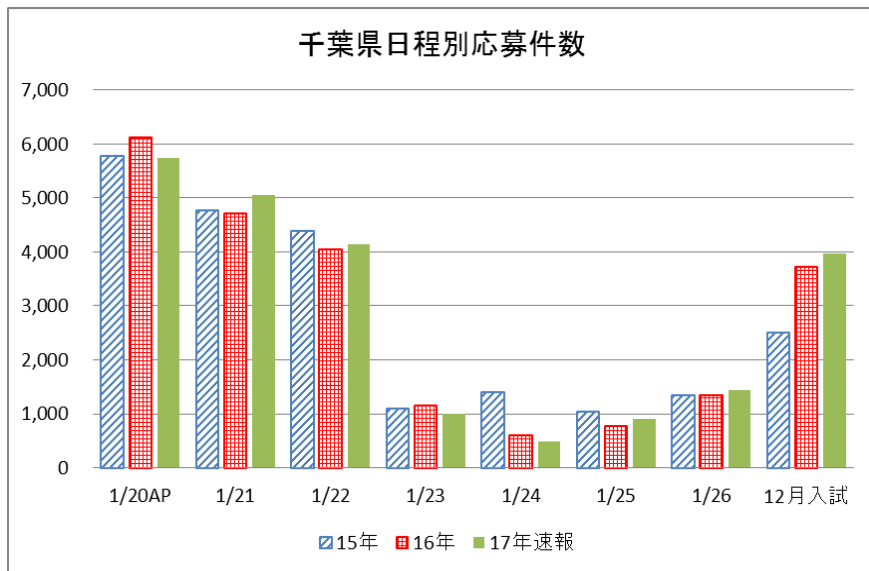
1. 概況 連続して応募総数は増加、実際の受験者数はさらに増加

千葉県の私立中学入試は12月1日開始の推薦(第一志望・専願)入試と、1月20日開始の一般入試の2本立てです。常磐線・つくばエクスプレス線方面では一般入試しか行っていない学校が多く、総武線・京葉線・京成線方面では難関・上位校を除いて推薦入試・一般入試とも実施している学校が多くなっています。今年の県内公立小6年生は約53,700名で、昨年より約500名の減少です。県内中学入試の応募総数は2月15日現在約27,800件でした。一部に未公表の

学校があり、最終的にはもう少し上乘せされると見込まれます。昨年の最終が約27,700件でしたので、昨年に続いて今年も前年をやや上回っています。昨年は公立一貫校の東葛飾の開校人気で増加しましたが、今年是新規開校がなくても中学受験は拡大しています。

上のグラフは各校の入試の応募者数を日程別に合計して一昨年、昨年と比較したものです。今年の数値は速報値です。12月の入試は、県立千葉・東葛飾の1次と私立の推薦・第一志望入試、12月実施の帰国生入試の合計です。また、1月20日は午前入試と午後入試の合計です。また、市立稲毛は人気校で、一昨年は24日に適性検査を実施していますが、昨年は30日、今年は28日実施のため、昨年と今年を含んでいません。

12月入試の応募者数が昨年大きく増加、今年も増えています。昨年は東葛飾の開校と千葉大第一の推薦新設、今年には東邦大東邦の推薦新設で応募者が増えています。1月の入試では、1月20日が減っていますが、これは本稿執筆時点で国立の千葉大附属が未公表だったため、例年通りの応募者数ならばほぼ昨年並みになります。21日は増加、22日も若干増えています。こちらは私立各校の人気の結果です。23日以降は比較的小規模になりますが、23日、24日はやや減、25日



と26日は微増といったところでしょう。なお、24日は昨年かなり減っていますが、前述の市立稲毛の影響です。

東京23区では、応募時総数が減って実際の受験者数は増えていますが、千葉県でも実際の受験者数は昨年より増えていて、今後未公表の学校が公表されると、最終的には応募者数の伸びよりも、もう少し大きい伸びになる見込みです。理由は東京23区と同じで、私立中学をあらかじめ多くの学校や入試回次に出願しておく動きが減り始めていて、確実に受験するところだけに願を絞る受験生が目立ってきたからです。

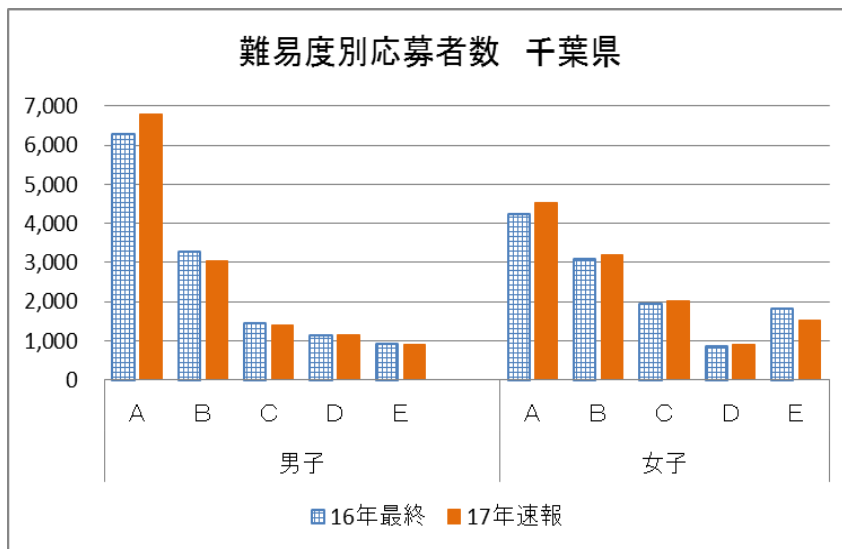
次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難

易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

東京23区や多摩地区、神奈川県や埼玉県とは異なり、男女とも難関校のAグループが最多なのが千葉県の特徴です。男子はB、C、D…と入り易くなるほど応募者が減少、スキーのジャンプ台のようなグラフです。女子はDグループが最少で、EグループはCグループに近い応募者数です。男子は応募総数の約半分、女子も約三分の一以上がAグループです。県内の中学受験生の半分や三分の一がAグループ校に応募するとは考えられませんから、東京都や神奈川県から多くの受験生が集まっているわけです。昨年に続いて県内中学受験の応募者は増加していますが、その人気の中心はAグループ校で、男女とも応募者が増えています。男子では、昨年よりも増えているのはAグループだけです。Bグループはやや減、C～Eグループは昨年並みです。女子はBグループが僅かに増えています、C・Dグループは例年並み、Eグループは減っています。女子のEグループはDグループより応募者が多く、昨年はCグループとあまり変わらない応募者数で、Aグループを頂点とする、難度による学校選びとは一線を画した存在ですが、人気に陰りが出ています。以下、各地域別に入試状況を見ていきます。県立千葉、東葛飾と市立稲毛は公立一貫校の概況をご覧ください。

2. 市川市～千葉市方面

まず女子校から。国府台女子は一昨年、応募者が減っていましたが、昨年は2回の一般入試が増加、今年は12月の推薦と2月の一般2回が増加、1月の一般1



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で千葉県私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…市川・渋谷幕張・昭和学院秀英・東邦大東邦
- B…国府台女子・芝浦工大柏・専修大松戸・千葉大附属
- C…聖徳大附属女子(S選抜)・成田高校付属・麗澤
- D…千葉日大第一・二松学舎大附柏(特選・グローバル)・日出国園・八千代松陰
- E…暁星国際・志学館・秀明八千代・翔凜・昭和学院・聖徳大附属女子(選抜・進学)・西武台千葉・千葉明德・東海大浦安・二松学舎大附柏(選抜)・和洋国府台

回も昨年並みで、人気が上がっています。特に志望順位の高い受験生が増えています。合格最低点は推薦が若干下がっていますが、特に入り易くなったわけではありません。一般入試は2回とも少し上がっていて、2回はやや難化したようです。和洋国府台は1月24日の2回を2科4科選択から2科、2科+英語、適性検査型の選択としました。昨年は各回とも応募者が少し減っていましたが、今年は2月6日の3回が減ったほかは概ね昨年とあまり変わらない応募者数でした。3回の減少は、入試を早めに終わる受験生が増えていることや都内各校との競合です。合格最低点は一部が未公表ですが、難度面では各回とも昨年並みだったようです。

続いて男女校です。トップ校の渋谷幕張は1月20日の帰国、2月の2次の応募者が増加、1月22日の1次は若干減少しています。昨年とは全く逆の動きで隔年現象的な変化ですが、昨年も今年も各回合計では前

年を少しずつ上回っています。2次の増加は1次不合格で再チャレンジの受験生が増えて、東京都内に流れる受験生が少し減ったようです。合格最低点は帰国がやや上がって少し難化したようですが、1・2次は昨年並みで、今年も高難度の入試でした。東邦大東邦は長年続けてきた高校募集を帰国生だけに絞り、中高一貫体制を強化しました。通常の公立中学校からの募集を停止したのは県内では初めてです。中学では代わって12月に推薦入試を新設、応募倍率は20倍を超えた人気ぶりで、実質倍率も男子が18.6倍、女子は25.6倍と、大激戦でした。新設入試ですから難度の比較は難しいのですが、合格最低点の得点率は7割に達していて、1月の前期並みの水準です。1月21日の前期、2月3日の後期も男女とも応募者が増えていて、人気が上がりました。合格最低点は前期がやや上がり、後期は若干下がっていますが、難度的には昨年とあまり変わっていないようです。

幕張メッセ入試で有名な市川は、昨年が続いて各回合計の応募者数が少し減っています。1回の合格最低点は男女ともやや下がっていますが、昨年は少し上がっていましたから、隔年的な変化です。入り易くなったわけではないでしょう。2回は昨年並みで、難度もほとんど変わっていません。昭和学院秀英は12月に1回として第一志望入試を行い、1月と2月に2・3回として一般入試を行っています。昨年は各回ともほぼ一昨年並みの応募者数でしたが、今年は各回とも少し減っています。高倍率が続いていたため、やや敬遠ムードが出たのかもしれませんが。実際の受験者数も少し減っていますが、3回は合格者を絞ったため、男子は14倍、女子は22倍を超える実質倍率でした。各回とも少し合格最低点下がっていますが、高倍率校ですから入り易くなったわけではなく、昨年よりやや得点しにくい出題だったのでしょう。応募者が少し減ったとはいえ、今年も厳しい入試でした。

千葉日大第一は昨年、12月に第一志望入試を新設して2月の3期入試を廃止しました。今年は改革2年目の入試です。昨年は改革が功を奏して応募者が増加、1・2期も難化して同校の狙い通りの入試でしたが、今年も勢いは続いていて、推薦はやや応募者が増加、1月21日の1期も増加、特に女子が大きく増えました。26日の2期は、女子はやや応募者が減ったものの、男子は昨年と同数で、各回合計では今年も昨年を上回っ

ています。ただし、1期の合格最低点は少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。2期も若干下がっていますが、昨年並みと言っても差し支えないでしょう。東海大浦安も付属カラーが強い学校です。昨年は12月の推薦の応募者が増えていて、1月の一般入試は2回とも一昨年に続いて少し減っていましたが、今年は推薦も含めて3回の入試とも少し減りました。ただ、女子は推薦と1月24日のBで増加、20日のAも昨年並みですから、各回とも男子の減少が応募者減の理由です。ただ、合格最低点はABとも上がっていて、特に男子は、受験生が絞られた結果の減少でした。

昭和学院は12月の推薦入試と1月21日に21世紀型学力を志向した「マイプレゼンテーション入試」を新設、1月21日は2科の一般入試も新設し、20日の一般1回は4科を取りやめて2科のみとして、4科のみだった特待生入試を2科4科選択とするなど、入試を大きく変更しました。2月の一般入試を廃止していますが、こうした改革が功を奏したようで、各回合計の応募者数は大きく増加、実際の受験者数も増えていきます。本稿執筆時点では合格最低点が未公表ですが、難度面では各回ともあまり変わっていないようです。日出学園は小規模な入試の学校です。今まで12月の推薦が2科、1月の2回の一般入試は4科でしたが、今年一般入試を2回とも2科4科選択とし、2科受験生への門戸を広げました。結果は推薦、一般I期、II期とも応募者が増加しています。女子は、1月23日の一般II期は増えたものの、推薦と20日のI期は昨年並みで、男子は各回とも増えています。2教科の男子受験生が集まったわけです。合格最低点はI・II期とも昨年並みで、新設した2科もほぼ同レベルですから、難度に変化は見られません。

千葉明德も小規模な入試の学校です。千葉市内南部で中学受験があまり広がっていない地域であること、開校6年目で、中学1期生が今春大学受験を迎えるため、学校選択時点ではまだ実績が出ていないことなどが理由です。しかし、昨年新設した適性検査型入試が受験生に浸透したようで応募者がかなり増えていて、あと一歩で小規模入試から脱却するところまで来ています。難度面では各回とも昨年並みだったようです。国立の千葉大附属は、本稿執筆時点で入試結果が未公表でした。なお、東京学館浦安が募集を停止しています。

3. 八千代市～成田市方面

成田高附属は前後期とも応募者が減っています。男子の減少が目立っていますが、この地域からは高校受験生が千葉市内を目指す動きが強くなっていて、中学受験にも影響しているのかもしれませんが。合格最低点は前後期とも昨年とほとんど変わらず、難度は安定しています。八千代松陰の各回合計の応募者数は一昨年が少し減っていて、昨年は一昨年並みでしたが、今年は再び減っています。実際の受験者数も減っています。全体的には女子よりも男子の減少が多く、特に12月の推薦入試は減少が目立っています。他校に流れたのかもしれませんが。2科4科選択の1月21日の入試の2科の合格最低点は上がっていますが、それ以外は少し下がっています。21日の2科は少し得点しやすい出題だったのでしょうか。全体的にはやや入り易くなったのかもしれませんが。秀明八千代は小規模な入試の学校ですが、今年は応募者が増えています。実際の受験者数も増えました。男子が増加の中心です。難度の面では昨年並みでしょう。

4. 木更津市～君津市方面

この地域の各校は寮を設置していて、他の学校とは性質が異なっています。翔凜は、昨年は推薦・一般入試とも応募者が増えていましたが、今年はどちらも減少していて、特に女子が目立ちます。首都圏で入試を行う地方寮制校との競合が厳しくなっているのかもしれませんが。難度面では特に変化はなかったようです。志学館も寮制の性格上、やはり小規模な入試でした。暁星国際は、本稿執筆時点で入試結果未公表です。

5. 常磐・北総・T×線方面

女子校の聖徳大附属女子から。同校は12月の第一志望入試で、進学コース限定の特技入試を新設しました。一昨年は各回合計の応募者数がやや減っていて、昨年は一昨年並みでしたが、欠席率が下がって実際の受験者数は増えていました。今年は各回とも応募者が少し減って、実際の受験者数も減っています。合格者数が少ない回次は合格最低点がバラつきますが、概ね昨年並みで、S選抜、選抜、進学の各コースとも難度は昨年と変わっていないようです。

男女校では、昨年グローバルサイエンスクラスを新設、コース制を実施した芝浦工大柏が、1月23日の1

回が昨年並みの応募者数、27日の2回と2月の3回はやや減りました。1回の合格最低点が少し下がっていますが、2回は昨年並みでした。1回の合格最低点が少し下がったのは、新コース制2年目で合格ラインの設定を見直したためでしょう。専修大松戸は、昨年は各回とも少しずつ応募者が増えていました。今年は1月20日の1回が男女とも増加、26日の2回は男子が昨年並み、女子は増加、2月3日の3回は男子が若干減、女子は増加で、女子の人気上昇が目立った結果でした。各回合計でも3,000名を超える規模の入試です。合格最低点は1・2回が昨年並み、3回は少し上がっていて、厳しい入試になっています。

麗澤はAE、EEの2コース制です。一昨年はコース制を開始、1月21日に入試を増設して、2コース併願生のダブルカウントを除いても応募者は1.6倍と大きく増加しました。昨年は反動もあったのか各回とも少し応募者が減っていて、今年は1月25日の3回と2月4日の4回の応募者が少し減っていますが、22日の2回は応募者がやや増えたことと欠席率が下がったことで実際の受験者数が増加、受験者数は合計でほぼ昨年と同数でした。4回は満点に変更になって合格最低点も昨年よりかなり上がっていますが、得点率は大差なく、AE、EE両コースの他の回次の合格最低点も昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。

二松学舎大附属柏はグローバル・特選・選抜の3コース制です。各回合計の応募者数は一昨年は減少、昨年は若干増加、今年は増えていて、人気は上向いてきたようです。全体では「小規模な入試」とは言えない応募者数ですが、入試の実施回数も多く、科目選択やコースが細分化されているため、1つ1つのコース・科目・入試回次単位の合格者数は少なく、合格最低点は変動している回次が目立ちますが、難度面では昨年とあまり変わっていないようです。西武台千葉は特選と進学の2コース制です。小規模な入試の学校で、一昨年、昨年は応募者が少しずつ減っていましたが、今年は実際の受験者数が増えました。同校は野田市内の受験生が中心ですが、他地域の学校に流れていた受験生の一部が戻ってきたようです。難度面ではあまり変化がなかったようです。

※本概況は、2017年2月15日までに回答のあった学校アンケートに基づき作成しています。2月15日以降変更等ある場合がありますので、ご了承ください。